

沿革

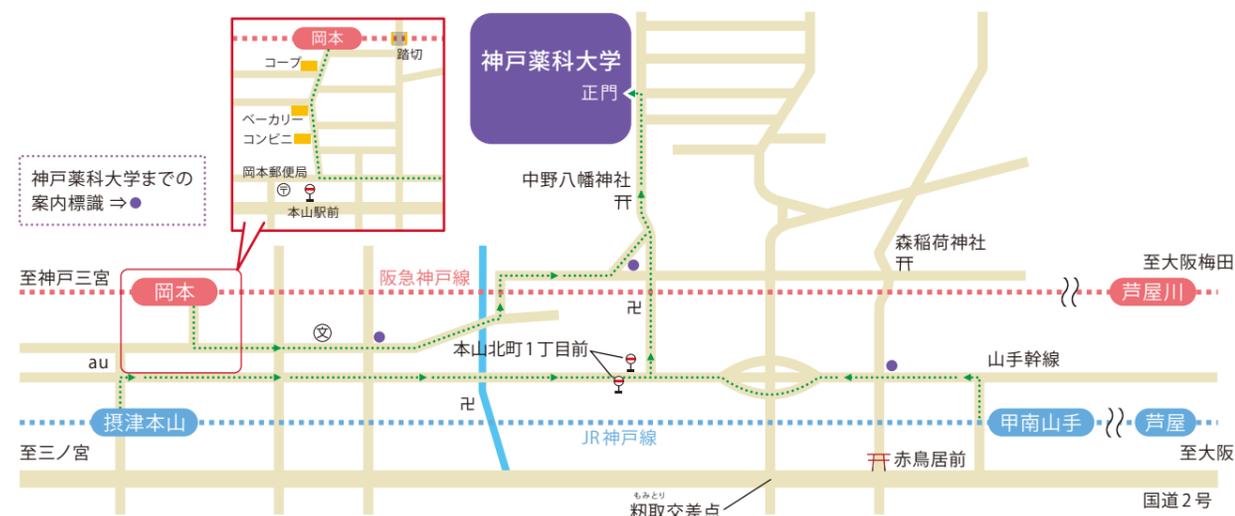
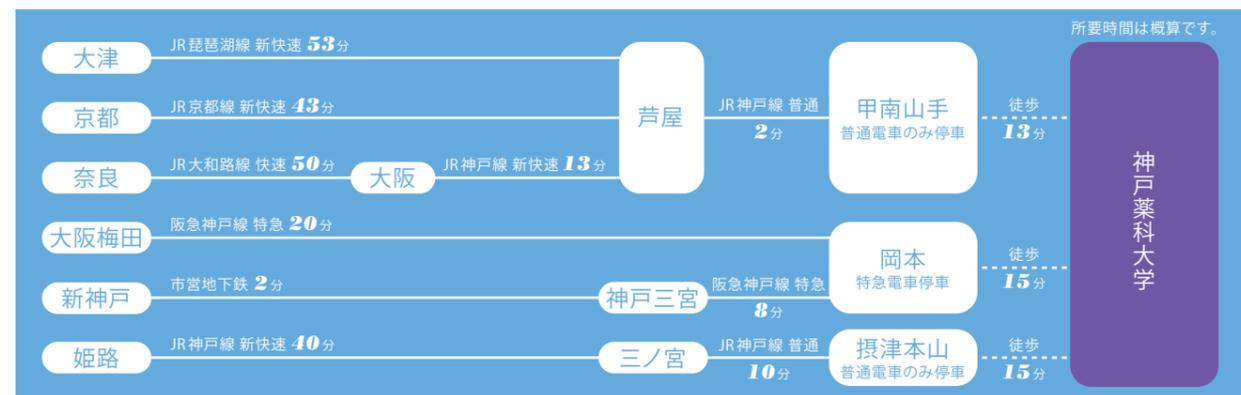
1930(昭和 5)年	神戸女子薬学校設立認可、武庫郡魚崎町の旧魚崎小学校を仮校舎に開校	1996(平成 8)年	5号館竣工、医療薬学総合研修センター開設
1932(昭和 7)年	専門学校令による「神戸女子薬学専門学校」の設立認可(認可 1932年3月29日 法人認可 1932年4月27日)	1999(平成 11)年	西宮グラウンド開設(2019年3月22日譲渡)
1935(昭和 10)年	本校舎(本館・実験室一棟、寄宿舎北寮)竣工、現在地に移転	2000(平成 12)年	10号館(神戸薬科大学ライフサイエンスセンター)竣工
1936(昭和 11)年	専門学校第1回生卒業	2001(平成 13)年	大学院医療薬学専攻修士課程開設認可
1949(昭和 24)年	神戸女子薬科大学の設置認可(1949年2月21日)、大学第1回生入学	2002(平成 14)年	大学院医療薬学専攻修士課程開設(2011年3月31日廃止)
1951(昭和 26)年	専門学校最終学生(第17回生)卒業	2005(平成 17)年	収容定員増(6年制)認可
1953(昭和 28)年	大学第1回生卒業、榎並記念研究所(9号館)竣工	2006(平成 18)年	学部6年制教育開始、薬学基礎教育センター開設
1958(昭和 33)年	2号館竣工	2007(平成 19)年	薬剤師認定制度認証機構より「生涯研修プロバイダー」の認証 エクステンションセンター開設、薬学臨床教育センター開設
1961(昭和 36)年	3号館竣工	2008(平成 20)年	11号館竣工、学生支援センター開設
1965(昭和 40)年	衛生薬学科増設認可(2012年3月31日廃止)	2009(平成 21)年	大学院薬学研究科薬科学専攻(修士課程)開設許可 (財)大学基準協会による大学評価(機関別認証評価)認定
1967(昭和 42)年	大学院修士課程の開設認可、1号館改築完成竣工	2010(平成 22)年	大学院薬学研究科薬科学専攻(修士課程)開設
1968(昭和 43)年	6号館(体育館)竣工	2011(平成 23)年	大学院薬学研究科薬学専攻(博士課程)設置届出受理
1973(昭和 48)年	7号館(学生会館)竣工	2012(平成 24)年	6年制初の卒業式、大学院薬学研究科薬学専攻(博士課程)開設
1974(昭和 49)年	8号館(食堂、談話室)竣工	2013(平成 25)年	80周年記念館(6号館)竣工(旧6号館解体)
1975(昭和 50)年	実験室排水処理施設竣工	2016(平成 28)年	(公財)大学基準協会による大学評価(機関別認証評価)認定
1977(昭和 52)年	4号館竣工	2017(平成 29)年	8号館(研究棟)竣工(旧8号館解体) (一社)薬学教育評価機構による薬学教育評価(専門分野別評価)認定 地域連携サテライトセンター竣工 薬剤師認定制度認証機構より健康食品領域研修認定薬剤師制度(P05)の認証
1979(昭和 54)年	大学院博士後期課程増設認可(2017年3月31日廃止)		
1994(平成 6)年	神戸薬科大学に名称変更(男女共学)		



神戸薬科大学
Kobe Pharmaceutical University

KOBE PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

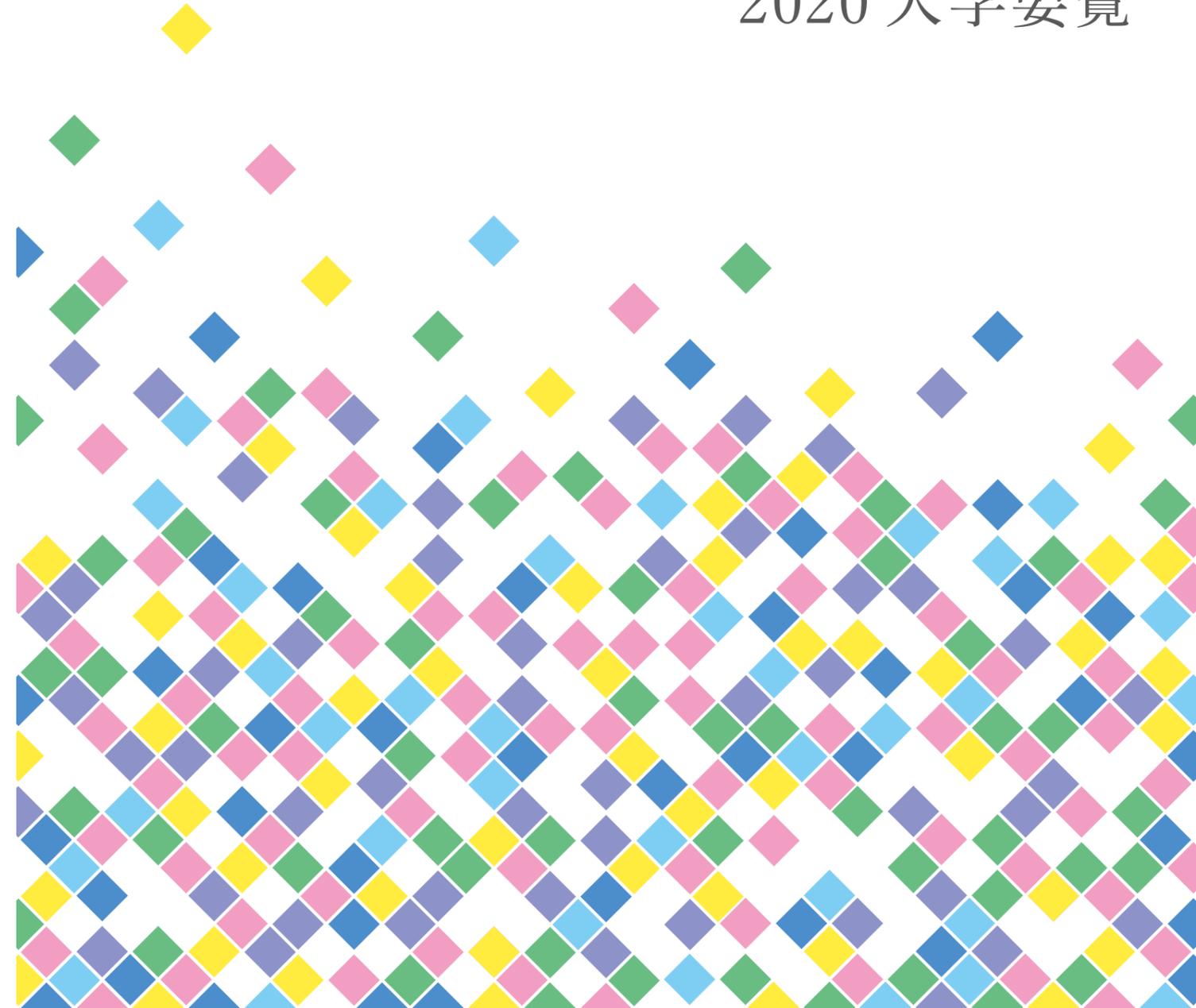
2020 大学要覧



〒658-8558 神戸市東灘区本山北町4-19-1 TEL.078-453-0031(代)

<https://www.kobepharm-u.ac.jp>

神戸薬科大学



卓越した教育力、研究力を用いて、 社会に貢献する

薬学のエキスパートを育成します

大学の理念

社会に大きく開かれた大学であることを意識し、創立以来の伝統である教育と研究の両立を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身につけた薬剤師、並びに教育・研究者を養成すること、さらに地域の医療と環境問題に目を向けて健康の維持・増進にも貢献できる拠点となること。

社会に大きく開かれた大学であることを意識し、創立以来の伝統である教育と研究の両立を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身につけた薬剤師、並びに教育・研究者を養成すること、さらに地域の医療と環境問題に目を向けて健康の維持・増進にも貢献できる拠点となること。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

所定の単位を修得し、薬剤師に必要な以下に掲げる知識、技能、態度を備えた学生の卒業を認め、「学士(薬学)」の学位を授与する。

1. 医療を担う薬の専門家として相応しい薬学に関する十分な知識、技能を有すること。
2. 薬学・医療の進歩と改善に貢献できる科学的思考力、課題発見能力、問題解決能力を有すること。
3. 医療人として相応しい倫理観と使命感を有し、患者や生活者の立場に立って行動できること。
4. 医療人に必要なコミュニケーション力を有すること。
5. 医療人としての活動に必要な英語力を有し、グローバル化に対応した国際感覚を有すること。
6. 地域の医療、環境衛生に貢献できる幅広い知識と見識を有すること。
7. 生涯にわたって自己研鑽をし続ける能力と意欲を有すること。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

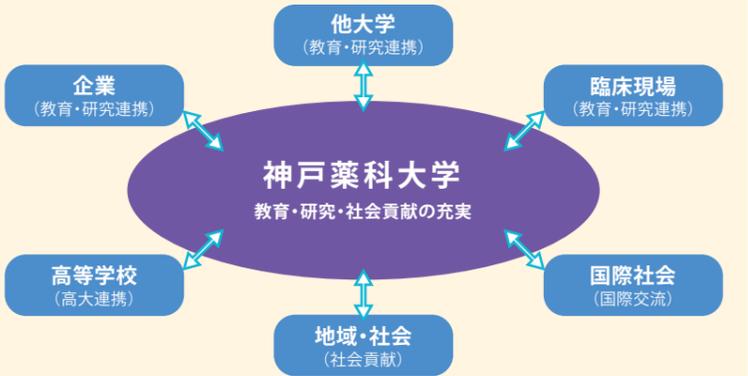
本学のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)に基づいて、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学独自の科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講する。

本学の教育課程では、その授業科目を基礎教育科目、教養教育科目及び専門教育科目に分ける。各授業科目は、必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。全ての授業科目にGIO(一般目標)と複数のSBOs(到達目標)を定める。これらのSBOsを達成することによりGIOに到達し、ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)を実現する。

- 幅広い視野を身につけるための教養教育科目、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した薬学基礎系科目及び医療系科目を系統的に編成し、実施する。
- 医療人としての倫理観と使命感を育成し、患者・生活者本位の視点を身につけるための科目を編成し、実施する。
- 国際化に対応できる人材の養成を図るため、6年間を通じて英語を学べる環境を構築するとともに、医療、薬学に係る英語科目を編成し、実施する。
- 地域の保健や医療に貢献できる知識と実践的能力を養成し、近隣大学や地域の医療機関との連携に基づくチーム医療教育を充実し、実施する。
- 研究マインドを涵養し、生涯にわたって自己研鑽を続け、後進を育成する意欲と態度を有する人材の養成を図るため、薬学臨床科目、薬学研究科目を編成し、実施する。
- 生涯学習に対する意欲を醸成するために、薬剤師生涯研修事業を取り入れるなど、特色ある薬学教育アドバンスト科目を編成し、実施する。
- 本学独自科目をシラバスに明記し、履修モデルをもとに目指すキャリアを明確にする。
- 高等学校から大学への円滑な接続ができるよう、初年次教育を充実させ、習熟度に配慮したクラス編成を取り入れた科目を編成し、実施する。
- 科学的思考力、課題発見能力、問題解決能力及びコミュニケーションスキルの育成を図るため、PBLやSGDなどのアクティブ・ラーニングを取り入れた少人数教育科目や統合教育科目を編成し、実施する。
- ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)に掲げる薬剤師に必要な知識、技能、態度を評価する。
 - ①「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学独自の科目の評価
 - ② 実務実習の評価
 - ③ 卒業研究の評価

神戸薬科大学の目指すもの

多様な連携を創出し、「輝く大学」の実現を目指す



アドミッション・ポリシー（入学生像）

本学では、その理念、教育目標、ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)及びカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)のもと、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、社会に貢献する為に高度な薬学の知識と技能を修得できる資質と協働性をもった、次のような人を求めています。

求める人物像

1. 自然科学を深く学ぶ意欲と能力を有している人物
2. 高等学校までに学ぶべき事項を幅広く修得している人物
3. 本学での学習を通してこれからの社会で通用する実力及び医療人に必要なコミュニケーション力を身につけ、将来、薬学、医療、及び関連する分野で活躍したいという強い意志と意欲を持つ人物

求める人物像における具体的な項目について記載し、このような入学者を適正に選抜するため多様な選抜方法を実施します。

- **関心・意欲・態度・探究心**
自然科学(特に薬学及び関連分野)に強い関心と学ぶ意欲を持ち、生命・健康・医療に関する諸問題に対して探究心を身に付け、活躍、貢献したいという意志を持つ人物
- **知識・教養**
薬学の専門分野を学ぶために、入学後の学修に必要な理科、数学に加え、英語等の基礎学力を有している人物
- **思考力・判断力**
これまでの知識をもとに、思考を深めながら適切に判断できる人物
- **表現力・コミュニケーション力**
自分が伝えたいことを相手に表現できるだけでなく、相手の表現を正しく理解し、コミュニケーションできる人物
- **協働性**
問題解決のために、いろいろな分野の人と協力して活動できる人物

*高等学校で学ぶべき具体的な内容

(試験科目より)

理科…「化学基礎・化学」「生物」「物理」の基礎的な知識と科学的に探究する姿勢
数学…「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」の基礎的な知識と論理的思考力
英語…「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション力・論理的思考力

(試験科目以外)

国語…様々な文章の読解力と自分の伝えたいことを表現できる基礎的な文章力
公民…倫理における基礎的な内容の理解
特別活動及び課外活動等を通した自主性、協調的な態度や思いやりと奉仕の心

医療産業都市神戸の立地を活かし、ますます社会に貢献します

神戸薬科大学は昭和5(1930)年に神戸以西では唯一の女子薬学教育機関として創設され現在まで18,241名の人材(卒業生)を輩出した88年の歴史を有する大学です。臨床教育重視を目的とした薬学教育6年制が定着した今、医療の現場で活躍できる人材をこれからも輩出し、社会に貢献できる大学であり続けることが求められています。国際性豊かな医療産業都市神戸の立地を活かした本学ならではの教育を更に推進し、それを実現するための学内の環境設備を充実させていきます。

また、本学の特長である「生涯研修」を更に充実させ、薬剤師の卒後のスキルアップに深くかかわり、広く門戸を開き「地域との連携」に取り組むことで、ますます社会に貢献できる存在であり続けます。

理事長 **宮武 健次郎**

薬学の学びを通じて社会に貢献する人を育てる それが神戸薬科大学の使命です

薬物治療の高度化を背景として、薬学への期待が高まっている中、本学では、時代の変化に対応できる人材の育成を目的とし、知識の修得だけでなく、思考力の醸成にも力を注いでいます。学生には、本学の教育システムをしっかりと学修することで、薬学の発展に貢献する人材として活躍することを願っています。

本学は、研究力の強化にも努めており、独創的な研究も盛んに行っています。近年では、加齢をテーマとした全学的な研究を展開し、これらの疾患の病因・病態を解明することで、治療薬及び予防薬の創製も視野に入れ、社会へ貢献することを目指しています。そして大学院教育にも力を入れ、医療及び薬学の各分野でリーダーとなりうる資質を持った人材の育成を行います。

今後も、職員一丸となり、充実した教育を提供し、社会で貢献できる人材の育成に尽力し、学び甲斐のある、より魅力的な大学に成長していきます。また、近隣大学及び臨床現場との連携を行い、どの時代においても社会が求めているものを分析し、社会への貢献に力を注ぐ所存です。

学長 **宮田 興子**

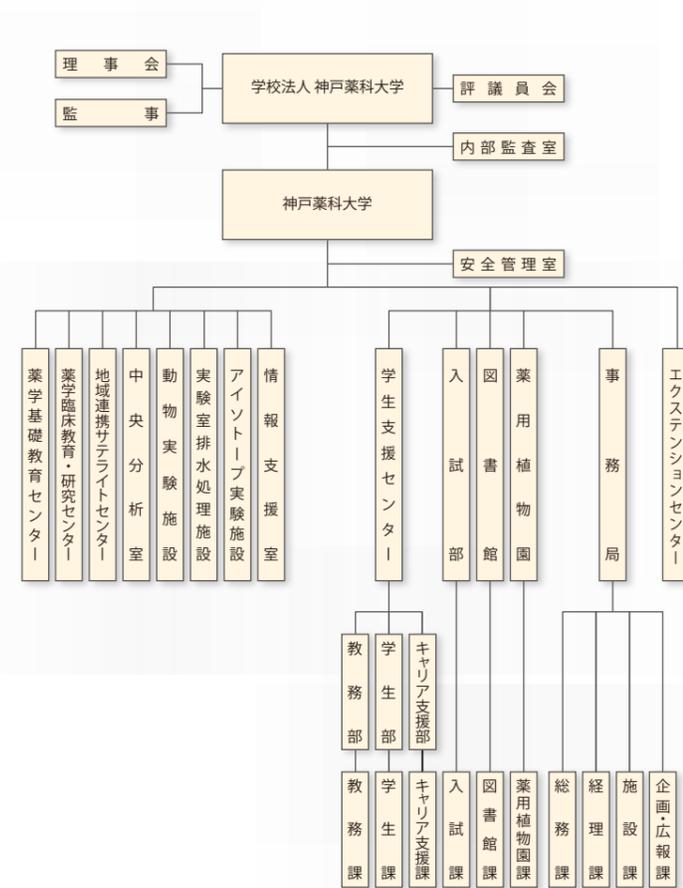
大学基本データ

大学設置 1949年

設置者 学校法人神戸薬科大学

本部所在地 兵庫県神戸市東灘区本山北町4-19-1

組織図



基本データ

学 生	学生数現員()は入学定員()は男子学生数	大学院		
年次別		学 部(270)	修士課程(5)	博士課程(3)
1		288 (101)	0(0)	6(3)
2		314 (82)	1(0)	6(4)
3		257 (70)		4(3)
4		295 (92)		1(1)
5		248 (67)		
6		274 (90)		
計		1,676 (502)	1(0)	17(11)

学部卒業生数

専門学校	学 部	合 計
1,740	16,501	18,241

学位授与状況

修士号取得(薬学)	修士号取得(薬科学)	博士号取得(課程博士)	博士号取得(論文博士)
638	18	45	44

職 員

教 育 職 員 (職名)					
教授	准教授	講師	助教	助手	非常勤講師
34 ^{※1}	15	24	12 ^{※2}	3	73

職種	事務局				学生支援センター			入試部	図書館	薬用植物園	情報支援室	内部監査室	計
	教務部	学生部	キャリア支援部	事務系	学生部	キャリア支援部	入試課						
事務系	7 ^{※3}	5	4	4	6	4	3	4	1		2	1	41
技術系		1								1			2
兼務							(1)					(2) ^{※4}	(3)
その他													
計	7	6	4	4	6	4	3(1)	4	1	1	2	1(2)	43(3) ^{※5}

※1:学長、副学長は教授に含む ※2:特任助教は助教に含む
※3:事務局長は総務課に含む ※4:うち1名は教員 ※5:()内の人数は兼務者

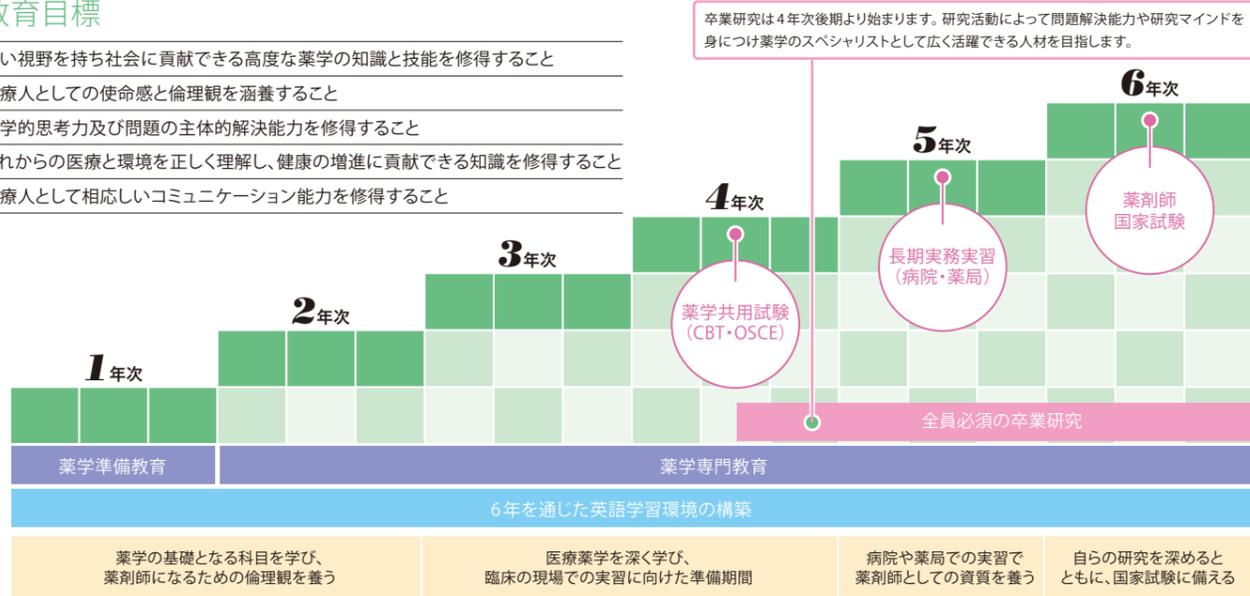
教育

医療の現場を意識した医療薬学教育を実践

神戸薬科大学のカリキュラムは、専門教育科目における高度な知識、技能の修得はもちろんのこと、実務実習事前教育と5か月に及ぶ病院・薬局実習がその中心的役割を担っています。それにとどまらず国際化がますます進む中、薬剤師に求められる実践的な英語力の修得を重視した教育、少人数グループによる演習科目の充実、更には研究室での卒業研究を通じて科学的探究心と思考力を育成し、問題発見・解決型の薬剤師の養成を目指します。

学部 《6年一貫の教育カリキュラム》 教育目標

- 広い視野を持ち社会に貢献できる高度な薬学の知識と技能を修得すること
- 医療人としての使命感と倫理観を涵養すること
- 科学的思考力及び問題の主体的解決能力を修得すること
- これからの医療と環境を正しく理解し、健康の増進に貢献できる知識を修得すること
- 医療人として相応しいコミュニケーション能力を修得すること



徹底した試験対策指導

6年一貫の体系的なカリキュラムの下、薬学基礎教育センター、各研究室、教員が一体となり、講義や補講、模擬試験、講習などを実施し、徹底した試験対策指導を行っています。



高い合格率を誇る「薬剤師国家試験」			
	103回(2018年)	104回(2019年)	105回(2020年)
本学*	85.85%	87.42%	84.06%
本学新卒	92.13%	93.50%	91.08%
全国*	70.58%	70.91%	69.58%

※既卒者含む

大学院

学部で積み上げた知識や研究成果を更に深化させる高等教育の場として、大学院薬学研究科を設置しています。チーム医療の現場において薬剤師として又は創薬研究、医薬品開発を担う質の高い研究者として活躍できる人材の養成を目指しています。

大学院 博士課程(4年制)カリキュラムイメージ



臨床薬学コース

医師・看護師との協働の下、薬物治療に参画できる人材へ
医師、看護師をはじめとする医療従事者との協働により、薬物治療に積極的に参画できる人材養成を目指します。神戸大学医学部附属病院等での2年間の長期臨床研修が可能な体制を整えています。

創薬・育薬コース

先端的薬学研究を指導的立場からリードできる人材へ
創薬・育薬分野において指導的立場でプロジェクトを遂行でき、自立して先端的薬学研究を展開できる人材養成を目指します。



MCPHS 臨床系教員との懇談

国際交流の活性化・多角的な活動

国際社会における保健衛生の保持、向上の重要性を視野に入れ、さまざまな方面での協力連携を推進しています。交流協定に基づいた共同研究や、外国人ポスト・ドクターの登用など、積極的な国際交流を図っています。

海外薬学研修プログラム

先進医療の中心地であるボストンの病院やコミュニティ・ファーマシーなどの医療施設や医薬品開発の研究機関を訪問するほか、提携大学であるマサチューセッツ薬科健康科学大学(MCPHS)で臨床系教員より実務実習の講義を受けたり、現地の学生と意見交換を行ったりするなど、海外の薬学教育を知る機会を設けています。

研究

共同研究やプロジェクト参画により研究成果を社会に還元する

大学の持続的発展のためには、学生へのよりよい教育の提供と教員の研究活動の活性化が必要不可欠です。研究室間、又は他の研究機関との共同研究やプロジェクトへの参画など研究協力を推進することにより、その成果を広く社会に還元し、本学の研究及び教育の発展に寄与していきます。

研究室/支援・教育センター

- 薬学系研究室
 - 生命分析化学研究室 / 医薬細胞生物学研究室 / 生化学研究室 / 薬化学研究室 / 薬品化学研究室 / 生命有機化学研究室 / 衛生化学研究室 / 微生物化学研究室 / 薬理学研究室 / 医療薬学研究室 / 製剤学研究室 / 薬品物理化学研究室 / 機能性分子化学研究室 / 薬剤学研究室 / 臨床薬学研究室 / 病態生化学研究室
- 支援・教育センター
 - 放射線管理室 / 中央分析室 / 薬学基礎教育センター / 薬学臨床教育・研究センター / 地域連携サテライトセンター / 薬用植物園
- 教養・社会薬学系研究室
 - 社会科学研究室 / 英語第一研究室 / 英語第二研究室 / 数学研究室 / 医療統計学研究室 / 臨床心理学研究室 / 医薬品情報学研究室

教育研究・施設等

情報支援室 / 動物実験施設 / アイソトープ実験施設 / 実験室排水処理施設 / 図書館 / エクステンションセンター

研究費獲得状況

科学研究費補助金の応募及び採択状況(新規課題+継続結果) (単位:千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	合計	
新学術領域研究	応募件数	2件	2件	0件	4件
	採択件数	1件	1件	0件	2件
	補助金額	2,900	2,900	0	5,800
基盤研究(B)	応募件数	5件	5件	7件	17件
	採択件数	4件	4件	3件	11件
	補助金額	15,100	13,900	15,500	44,500
基盤研究(C)	応募件数	42件	41件	47件	130件
	採択件数	22件	21件	28件	71件
	補助金額	25,780	23,100	28,800	77,680
挑戦的萌芽研究	応募件数	7件	6件	5件	18件
	採択件数	1件	1件	1件	3件
	補助金額	1,400	2,400	2,400	6,200
若手研究(A)	応募件数	1件	1件	0件	2件
	採択件数	1件	1件	0件	2件
	補助金額	5,000	5,200	0	10,200
若手研究(B)	応募件数	8件	4件	0件	12件
	採択件数	4件	4件	0件	8件
	補助金額	6,500	4,900	0	11,400
若手研究	応募件数	0件	9件	9件	18件
	採択件数	0件	4件	7件	11件
	補助金額	0	6,500	9,800	16,300
研究活動スタート支援	応募件数	5件	2件	1件	8件
	採択件数	1件	2件	1件	4件
	補助金額	1,100	1,900	1,100	4,100
合計	応募件数	70件	70件	69件	209件
	採択件数	34件	38件	40件	112件
	補助金額	57,780	60,800	57,600	176,180

その他の研究費受領件数・金額 (単位:千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	合計	
受託研究費	件数	7件	4件	4件	15件
	金額	18,790	11,152	9,882	39,824
奨学寄附金	件数	19件	17件	16件	52件
	金額	12,670	10,568	11,550	34,788
非営利団体等からの助成金	件数	12件	8件	4件	24件
	金額	28,900	8,300	4,642	41,842

論文発表状況

	2017年度	2018年度	2019年度	合計
研究論文	86	101	74	261
著書	11	11	11	33
総説	9	7	12	28
学会発表	241	254	309	804

寄付金受入状況

(単位:千円)

	2017年度	2018年度	2019年度	合計	
神戸薬科大学	件数	31件	3件	1件	35件
教育研究資金	金額	7,850	1,150	250	9,250
学部生への	件数	—	1件	1件	2件
給付型奨学金資金	金額	—	1,000	1,000	2,000

研究事業・連携

神戸大学との大学間連携

本学は、いち早く先進的な教育を行ってきました。そのひとつが神戸大学と連携協定を結んだ「医薬共同」の教育です。早期の学習から専門性の向上にいたるまで、一貫した医薬共同の教育を展開。広範な薬学のフィールドで活躍できる医療人の育成を目指しています。

- 学部
 - チーム医療教育を推進
 - 初期体験臨床実習[1年次]
 - IPW(多職種間協働)演習[5年次]
 - 卒業研究[4~6年次]
 - 神戸大学臨床研究コース
- 大学院
 - 単位互換制度の導入
 - 学生の相互受入れ
 - 専門薬剤師養成コースを設置
- 病院
 - 薬剤師レジデント・薬大教員の医療従事
- 研究
 - 共同研究の推進

文部科学省 多様な新ニーズに対応する がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン

7大学が相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための教育拠点構築を目的とし、わが国及び地域のがん医療の向上を推進します。

参加大学

大阪大学 / 兵庫県立大学 / 和歌山県立医科大学 / 奈良県立医科大学 / 京都府立医科大学 / 大阪薬科大学 / 神戸薬科大学

就職

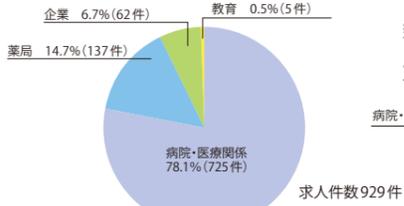
低学年次からキャリア意識を高める、きめ細かな支援プログラムを実施

低学年次から進路について考えたり、業界のことを学んだりできる就職支援プログラムを展開。学生が自分にふさわしい進路を見つけることができるよう、さまざまな角度からサポートしています。

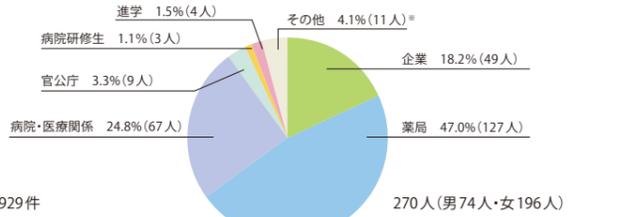
主な就職先一覧

- 【企業】
- EP総合
 - オフテックス
 - コーセー
 - リニカル
 - 三五化学研究所
 - 新日本科学PPD
 - 大塚製薬工場
 - IQVIA サービスズジャパン
 - アステラス製薬
 - アストラゼネカ
 - アッヴィ
 - アルフレッサ
 - イービーエス
 - クラシエ製薬
 - シオノギファーマ
 - シミツホールディングス
 - スペルファーマ
 - ノボ ノルディスク ファーマ
 - パレクセル・インターナショナル
 - マルホ
 - ロート製薬
 - 堀野義製薬
 - 佐藤製薬
 - 小野薬品工業
 - 横水メディカル
 - 大地化成
 - 大日本住友製薬
 - 第一三共
 - 中外製薬
 - 蝶理
 - 東和薬品
 - 藤本製薬
 - 日精バイリス 滋賀研究所
 - 武田薬品工業
- 【病院】
- 八尾総合病院
 - 医誠会病院
 - 京都きつ川病院
 - 南大阪病院
 - 大阪警察病院
 - 長久病院
 - 守口生野記念病院
 - 香芝旭ヶ丘病院

2019年度 本学への求人状況



2019年度3月 卒業生の進路状況



※ 留学・自営・資格取得希望者・就職せず・未定 (2020年5月1日現在)

- ツカザキ病院
- グッドライフ病院
- 相澤病院
- 神戸海星病院
- 製鉄記念広畑病院
- 北摂総合病院
- 川崎病院
- 大道会
- 尼崎中央病院
- 岸和田徳洲会病院
- 紀和病院
- 美杉会
- 三木山陽病院
- 明石医療センター
- 明和病院
- 甲南医療センター
- 住友病院
- 倉敷成人病センター
- 北野病院
- 加古川中央市民病院
- 神戸市民病院機構
- 大阪府立病院機構
- 済生会松阪総合病院
- 山口県済生会下関総合病院
- 大阪府済生会千里病院
- 大阪府済生会泉南病院
- 大阪府済生会中津病院
- 徳山中央病院
- NHO 近畿グループ
- 愛媛大学医学部附属病院
- 堺平病院

- 関西医科大学附属病院
- 広島大学病院
- 高知赤十字病院
- 三重大学医学部附属病院
- 庄原赤十字病院
- 浅香山病院
- 鳥取大学医学部附属病院
- 島根大学医学部附属病院
- 奈良県立医科大学附属病院
- 日本赤十字社和歌山医療センター
- 洛和会ヘルスケアシステム
- 京都大学医学部附属病院 薬剤師レジデント
- 神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤師レジデント
- 神戸大学・神戸薬科大学 薬剤師レジデント
- 神戸大学医学部附属病院 薬剤師レジデント

- 【薬局】
- アイセイ薬局
 - アインホールディングス
 - アビスファーマシー
 - アルカ アルカ調剤薬局
 - ウィーズ
 - クスリのアオキ
 - グッドプランニング
 - クリエイトエス・ディー
 - ココカラファインヘルスケア
 - サンドラッグ
 - サンニシイチ
 - スギ薬局
 - トモズ
 - パナドーム パナプラス薬局
 - ファーマシー
- フロントシア
- ぼうしや薬局
 - ホロン すずらん薬局グループ
 - マツモトキヨシ
 - マリナーグループホールディングス
 - メディカルシステムネットワーク なの花薬局
 - メディカルユアーズ
 - メディカルー光
 - ユードイファーマシー
 - 関西メデイコ
 - 大新堂 フタツカ薬局
 - 奈良保健共同企画
 - ハシモト薬局
 - 藤田薬局
 - I&H 阪神調剤グループ
 - イオンリテール
 - ウエルシアホールディングス
 - クオール
 - クラフトさくら薬局
 - サンブラザ薬局
 - たんぼは薬局
 - ゆう薬局グループ
 - 総合メディカル
 - 中部薬品
 - 日本調剤
- 【官公庁】
- 高知県職員
 - 兵庫県職員
 - 愛媛県職員
 - 大阪市職員

神戸薬科大学地域連携サテライトセンター

他大学や企業・自治体と連携を図り、地域や薬剤師に向けて本学が有する知識を発信・活用できる場として機能させていくことを目指します。

- テーマ** 科学的根拠に裏付けされた健康サポート活動
- 目的** 地域の皆さん・患者さんとの交流による学生教育
高齢者の健康寿命をのぼす

- 主な取り組み** 地域の皆さん向け
 - 健康サポートセミナー〔東灘区役所連携事業〕
 - くすりと健康セミナー〔東灘区薬剤師会連携事業〕
 - 地域健康サポート・カフェ など
- 薬剤師向け：主な取り組み**
 - 薬科大学と臨床現場を繋ぐセミナー など

生涯研修

薬学の「英知」を拡げ、薬学のプロとして進化・深化し続ける

本学では社会で活躍する薬剤師からの期待とニーズにこたえるため高水準の薬学教育をはじめとする多様な学びの場を提供し、社会で活躍する薬剤師の資質向上と生涯研鑽に寄与しています。

エクステンションセンター事業

本学が薬学教育で培ってきた独自のカリキュラムや人的資産などを生かし、社会で活躍する薬剤師の専門的資質の向上と生涯研鑽に寄与するエクステンションセンター事業を展開しています。本事業を学部及び大学院と並び立つ、第三の教育事業として位置付け、あらゆる職域の薬剤師に向けて豊富な生涯研修の場と情報を提供しています。

エクステンションセンター

本学で実施している研修講座はすべて公開講座です。卒業生はもちろん、他大学出身の薬剤師や医療従事者の方なども多く受講されています。卒後、実社会で働く薬剤師は、時代に即応した医療レベルに継続的にこたえていく必要があり、医療現場の薬剤師に有用かつ実践的な生涯研修の場と情報を提供し、薬剤師支援活動の強力な拠点になることを目指しています。時節に応じた話題を捉えた講義、症例を用いた実践的なセミナーなどを実施し、薬剤師の資質向上に寄与するとともに、学部学生からも活用されることを期待しています。

神戸薬科大学生涯研修認定制度

本学は、公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構から「生涯研修認定制度」(G07) と「健康食品領域研修認定薬剤師制度」(P05) の両分野の認証を取得しました。1つのプロバイダーで2つの認証を取得したのは、本学が最初です。

●「生涯研修認定制度」(G07) は、2007年6月に首都圏以外の薬系大学では初めてとなる認証を受け、2016年8月には、2回目の認証更新が承認されました。

●「健康食品領域研修認定薬剤師制度」(P05) は、2017年12月に特定領域制度として認証を受けました。この制度は、健康食品やサプリメントに関する専門知識を有し、消費者に科学的根拠に基づいた適正な情報を提供できる「健康食品領域研修認定薬剤師」を養成・認定し、薬剤師による健康サポート活動の質的向上に貢献すると共に、国民の健康増進に寄与することを目的としたものです。また、2019年4月には、本学で初めて6名の「健康食品領域研修認定薬剤師」が誕生しました。

- 主な取り組み**
 - 卒後研修講座
 - リカレントセミナー
 - 薬剤師実践塾
 - シンポジウム
 - 症例検討会
 - 健康食品講座
 - 「在宅医療」に関わる薬剤師養成プログラム など

財務情報

2019年度 法人会計決算の概要

神戸薬科大学の財務状況を本学ホームページにてPDF形式ファイルで公開しています。なお、本学では「事業計画／予算書」・「事業報告書」・「会計報告書」等の印刷物についても閲覧・複写・配布などの方法により情報公開を行っております。ご希望の方は事務局へお申し出ください。

資金収支計算書総括表〔2019年4月1日から2020年3月31日まで〕

科目	支出の部			差異
	予算	決算		
人件費支出	1,701,900	1,634,434	67,466	
教育研究経費支出	1,276,200	1,072,954	203,246	
管理経費支出	294,900	228,018	66,882	
借入金等利息支出	0	0	0	
借入金等返済支出	0	0	0	
施設関係支出	44,400	41,478	2,922	
設備関係支出	242,400	212,040	30,360	
資産運用支出	355,000	557,335	△ 202,335	
その他の支出	63,400	62,346	1,054	
[予備費]	20,000	—	20,000	
資金支出調整勘定	△ 55,800	△ 112,392	56,592	
翌年度繰越支払資金	754,200	1,416,344	△ 662,144	
支出の部合計	4,696,600	5,112,556	△ 415,956	

科目	収入の部			差異
	予算	決算		
学生生徒等納付金収入	3,190,300	3,224,380	△ 34,080	
手数料収入	92,800	97,983	△ 5,183	
寄付金収入	20,000	16,918	3,082	
補助金収入	250,100	244,323	5,777	
資産売却収入	0	0	0	
付随事業・収益事業収入	29,800	33,477	△ 3,677	
受取利息・配当金収入	41,600	43,380	△ 1,780	
雑収入	95,000	140,630	△ 45,630	
借入金等収入	0	0	0	
前受金収入	387,200	399,853	△ 12,653	
その他の収入	154,000	156,011	△ 2,011	
資金収入調整勘定	△ 4,562,000	△ 551,721	95,521	
前年度繰越支払資金	892,000	1,307,321	△ 415,321	
収入の部合計	4,696,600	5,112,556	△ 415,956	

事業活動収支計算書総括表〔2019年4月1日から2020年3月31日まで〕

科目	支出の部			差異
	予算	決算		
人件費支出	1,684,500	1,622,144	62,356	
教育研究経費支出	1,779,000	1,577,878	201,122	
徴収不能額等	385,000	322,944	62,056	
徴収不能額等	0	0	0	
教育活動支出計	3,848,500	3,522,967	325,533	

借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0

資産処分差額	0	18,174	△ 18,174
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	0	18,174	△ 18,174

[予備費]	20,000	—	20,000
-------	--------	---	--------

貸借対照表〔2020年3月31日現在〕

科目	資産の部		
	本年度末	前年度末	増減
固定資産	24,743,121	24,588,893	154,228
有形固定資産	12,198,904	12,548,721	△ 349,817
土地	867,627	867,627	0
建物	9,218,065	9,547,926	△ 329,861
その他の有形固定資産	2,113,212	2,133,169	△ 19,957
特定資産	12,538,849	12,034,804	504,045
第2号基本金引当特定資産	3,060,000	2,750,000	310,000
第3号基本金引当特定資産	954,326	952,621	1,705
減価償却引当特定資産	6,725,364	6,524,734	200,630
その他の特定資産	1,799,159	1,807,448	△ 8,289
その他の固定資産	5,368	5,368	0
流動資産	1,553,344	1,415,263	138,081
現金預金	1,416,344	1,307,321	109,024
その他の流動資産	137,000	107,942	29,058
資産の部合計	26,296,465	26,004,156	292,309

財産目録〔2020年3月31日現在〕

区分	資産額	金額
Ⅰ 資産総額		26,296,465
内 基本財産		12,335,904
運用財産		13,960,561
Ⅱ 負債総額		1,488,730
Ⅲ 純資産額(正味財産)		24,807,735
1 基本財産		12,335,904
土地		867,627
建物	57,998.40 m ²	48,457,999 m ²
図書(図書106,688冊・雑誌571誌他)		9,218,065
構築物・機器備品	2,559点 他	1,023,497
その他		1,089,715
2 運用財産		13,960,561
現金預金		1,416,344
特定資産		12,538,849
その他		5,368
資産総額		26,296,465
純資産額(資産総額-負債総額)		24,807,735

科目	収入の部			差異
	予算	決算		
学生納付金	3,190,300	3,224,380	△ 34,080	
手数料	92,800	97,983	△ 5,183	
寄付金	20,000	16,918	3,082	
経常費等補助金	250,100	215,358	34,742	
付随事業収入	29,800	33,477	△ 3,677	
雑収入	95,000	140,630	△ 45,630	
教育活動収入計	3,678,000	3,728,746	△ 50,746	
教育活動収支差額	△ 170,500	205,780	△ 376,280	

受取利息・配当金	41,600	43,380	△ 1,780
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	41,600	43,380	△ 1,780
教育活動外収支差額	41,600	43,380	△ 1,780

経常収支差額	△ 128,900	249,160	△ 378,060
--------	-----------	---------	-----------

資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	0	43,655	△ 43,655
特別収入計	0	43,655	△ 43,655
特別収支差額	0	25,481	△ 25,481

基本金組入前当年度収支差額	△ 148,900	274,641	△ 423,541
基本金組入額合計	△ 470,300	△ 405,379	△ 64,921
当年度収支差額	△ 619,200	△ 130,738	△ 488,462
前年度繰越収支差額	△ 174,300	493,680	△ 667,980
翌年度繰越収支差額	△ 793,500	362,942	△ 1,156,442

科目	負債の部		
	本年度末	前年度末	増減
固定負債	806,325	818,614	△ 12,289
退職給与引当金	806,325	818,614	△ 12,289
流動負債	682,405	652,448	29,957
前受金	399,853	417,947	△ 18,094
その他の流動負債	282,553	234,501	48,051
負債の部合計	1,488,730	1,471,062	17,668

科目	純資産の部		
	本年度末	前年度末	増減
基本金	24,444,793	24,039,414	405,379
第1号基本金	20,181,633	20,087,958	93,675
第2号基本金	3,060,000	2,750,000	310,000
第3号基本金	954,326	952,621	1,705
第4号基本金	248,834	248,834	0
繰越収支差額	362,942	493,680	△ 130,738
翌年度繰越収支差額	362,942	493,680	△ 130,738
純資産の部合計	24,807,735	24,533,094	274,641
負債・純資産の部合計	26,296,465	26,004,156	292,309

区分	負債額	
	金額	
1 固定負債		806,325
退職給与引当金		806,325
2 流動負債		682,405
前受金		399,853
その他		282,553
負債総額		1,488,730